3-5　目録

図書館の蔵書を検索，管理するため作成する。

各校の状況によるが，ここではMARC（機械可読目録）の利用について説明する。なお，「記述ユニット・カード方式」については，巻末資料もしくは『日本目録規則1987年版改訂3版』(2006　日本図書館協会）を参照のこと。

3-5-1　目録データのダウンロード

図書館の蔵書を検索,管理するために,図書館の本を受け入れる際には,ＭＡＲＣをダウンロードする。

このとき,手入力でＭＡＲＣ作成を行うと,記述にぶれが生じるとともに,膨大な手間がかかる。そのため外部のＭＡＲＣ作成団体と契約を行い,インターネット上からデータをダウンロードすることが一般的である。各校の採用するシステムに合ったＭＡＲＣ形式をダウンロードする。

【一般的なＭＡＲＣ作成団体】

①ＴＯＯＬｉ（ツールアイ）　(https://tooli.trc.co.jp/)

株式会社図書館流通センター（ＴＲＣ）が作成しているＭＡＲＣをダウンロードできる。ダウンロードフォーマットをＵタイプ（新分解型）,Ｕタイプ（TRCD型）,Ｔタイプ（UTF8版）,Ｔタイプ（SJIS版）等から選ぶことができる。

② 国立国会図書館ＪＡＰＡＮ／ＭＡＲＣ提供サービス　(https://ndlopac.ndl.go.jp)

平成24年1月より,国立国会図書館が収集整理した国内刊行出版物の全国書誌を機械可読目録ＪＡＰＡＮ／ＭＡＲＣとして提供している。国立国会図書館の利用登録を行うと,ＮＤＬ－ＯＰＡＣでＭＡＲＣを無料でダウンロードすることができる。ただし,ダウンロードデータの形式が各校で採用しているシステムに対応しているか,慎重に確認する必要がある。

3-5-2　ダウンロードしたＭＡＲＣの取り込み・編集

ここでは，一般的な流れを紹介する。詳細については，各校採用の学校図書館システム取扱説明書を参照。

① 新本のＭＡＲＣをＩＳＢＮ等から検索する。

② 本のデータがヒットしたら，自校で採用する分類番号や価格等の必要なローカル情報を入力して，ＭＡＲＣを保存する。登録する本が複数ある場合は，①,②の作業を,本の冊数分だけ繰り返す。ローカルデータの入力は，各校の実情や蔵書数に合わせて,できるだけ一貫性を持って行う。

③ ②で保存した本のＭＡＲＣデータをダウンロードする。ＭＡＲＣファイルは,保存場所としてデスクトップ等の分かりやすい場所のフォルダを指定し,ダウンロードを行う。

④ ダウンロードしたＭＡＲＣを図書館管理システムに取り込む。